

情報通知

研究課題名：SPPB 高値を示す入院心不全患者における快適歩行速度の臨床的意義

研究の実施体制：谷友太(責任者)、伊藤祐輝(沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法士)

研究の目的：心不全は、心臓に器質的あるいは機能的異常が生じ、その結果として心ポンプ機能の代償機構が破綻し、呼吸困難、倦怠感、浮腫などの症状を呈し、運動耐容能が低下する臨床症候群と定義されています。近年、世界的に心不全患者数の増加が報告されており、本邦においても高齢化の進行に伴い、心不全患者数は今後さらに増加することが予測されています。

本邦の心不全患者を対象とした観察研究では、高齢者が占める割合が高いことが示されており、急性・慢性心不全のいずれにおいても、75歳以上の高齢患者が多数を占めることが報告されています。このように、心不全は疾患そのものの管理に加え、高齢者特有の問題を併せ持つ疾患として位置づけられています。

高齢心不全患者では、フレイルやサルコペニアを合併する頻度が高く、下肢機能や身体能力の低下が臨床経過や予後に大きく影響することが知られています。これらの身体機能を包括的に評価する指標の一つとして、Short Physical Performance Battery (SPPB) が広く用いられています。SPPB は、バランス能力、歩行能力、椅子立ち上がり動作から構成される評価法であり、心不全患者においても、退院後の予後や再入院、死亡率との関連が報告されていることから、臨床および研究の場で重要な評価指標とされています。

一方で、SPPB は合計点による評価であるため、下肢機能が比較的保たれている患者では高得点に集中しやすく、身体機能の微細な差異を十分に反映できない可能性が指摘されています。特に、入院初期から SPPB が高値を示す心不全患者においては、身体機能低下のリスクが過小評価される可能性があります。

歩行速度は、高齢者や心不全患者において、身体機能やフレイルの程度、さらには予後を反映する簡便かつ信頼性の高い指標として知られており、連続変数として評価できる点で、SPPB 合計点では捉えきれない機能差を評価できる可能性があります。快適歩行速度 1.0 m/s は、身体機能低下や予後不良を示唆するカットオフ値として報告されています。

しかしながら、入院初期に SPPB が高得点と評価された心不全患者を対象に、歩行速度に着目し、その臨床的意義、特に在院日数との関連性を検討した報告は限られています。下肢機能が良好と判断されやすい患者群においても、歩行速度の低下が入院期間の延長と関連する可能性を明らかにすることは、入院早期からのリスク層別化や、より適切なリハビリテーション介入を検討する上で重要であると考えられます。

以上を踏まえ、本研究の目的は、入院初期に SPPB が高得点である心不全患者を対象として、歩行速度に着目し、その違いが在院日数に及ぼす影響を明らかにすることです。本研究により、SPPB 高得点患者における歩行速度評価の意義を明確化し、入院心不全患者に対する早期リスク評価およびリハビリテーション戦略の構築に資する知見を得ることを目的とします。

研究の対象：2021年4月～2025年3月の間に沼田脳神経外科循環器科病院に心不全の診断にて入院し、リハビリテーションを実施した患者様とします。当院のデータベースの情報をそれぞれ見返して、情報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

収集する情報：年齢、性別、身長、体重、疾患名、入院期間、既往歴、転帰、歩行補助具となります。

情報の保管および破棄、情報公開の方法：データを解析する段階では、個人を特定できる情報は含まれません。検査結果は Excel への出力および ID 番号を用いて対応表にて管理します。ファイルはパスワードでロックし、パソコンは施錠可能な室内にて保管します。ファイルの移動に関しては、パスワードでロック可能な USB を用いて行います。研究終了後のデータの取り扱いとして、デジタルデータはいかなるソフトウェアでも復元できないよう PC 上で完全に削除します。

得られた結果については論文あるいは学会で発表することがあります。

見込まれる医学上の貢献：本研究により、SPPBが高得点の患者様における歩行速度評価の臨床的意義を明確にし、入院心不全患者の早期リスク評価およびリハビリテーション戦略の最適化に資する知見を得ることができる可能性があります。

研究に関する問い合わせ先：

群馬県沼田市栄町8番地、0278-22-5052 (内線5410)

沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション課

担当者:谷友太 (責任者)